大分県教育委員会

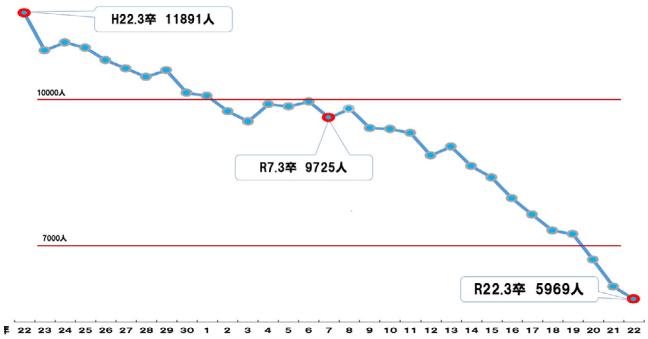
大分県の遠隔教育について

～県立高等学校の次世代型教育システムの構築～

1 はじめに

大分県では、近年、少子化の進行による生徒数の急激な減少という深刻な課題に直面しています。中学校卒業者数は、平成 22 年 3 月の 11,891 人から、本年（令和 7 年）3 月には 9,740 人へと、この 15 年間で約 18% 減少しました。さらに、今後 15 年間で中学校卒業者数は 3 分の 1 以上減少し、令和 22 年 3 月には 5,969 人となる推計が出ており、減少率は 38% に達します。

［大分県内の中学校卒業者推移（予定含む）］



このような生徒数の減少により、現在、多くの地域の高校で定員の確保が課題となっており、教員配置数も減少する傾向にあります。その結果、特に一部の小規模な学校では、教員数の減少により選択科目（美術や書道など）の授業を開設することが困難になったり、数学や英語などで生徒の理解度に応じた習熟度別指導が難しくなったりすることが懸念されています。

大分県教育委員会は、こうした課題に対応するため、遠隔教育などを活用して取り組んでいく考えです。

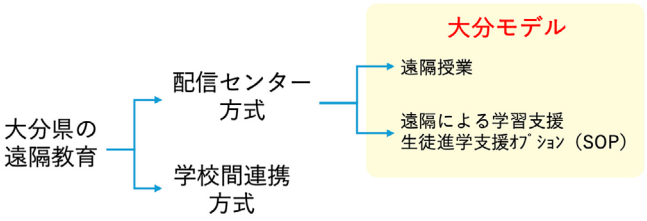
2 大分県の遠隔教育が目指す目的

大分県における遠隔教育は、今後さらに生徒が減少する時を見据え、県内どの地域に住んでいても、本県の生徒一人一人が、自分の可能性を最大限に伸ばし、多様な進路希望が実現できるよう、多様で質の高い高校教育を受けられる環境を整備することを目的としています。特に、選抜性が高い大学への進学を目指す生徒に対し、質の高い学びを提供することにも焦点を当てています。

3 大分県の遠隔教育の概要

大分県では、2 つの形態による遠隔教育を実施しています。1 つ目は、大分市内にある配信センターから地域の学校へ、双方向型の遠隔授業を配信する「配信センター方式」です。2 つ目は、専門学科の設置校から、専門科目を開設する地域の高校に、双方向型の遠隔授業を配信する「学校間連携方式」です。

さらに、「配信センター方式」の遠隔教育では、「遠隔授業」と「遠隔による学習支援（SOP）」という 2 つの側面からなる「大分モデル」を展開しています。単に授



業を実施するだけでなく、生徒一人ひとりの進路希望に寄り添った学習支援を、ICT の力によって実現する仕組みです。

4 配信センター方式による大分モデル ～「遠隔授業」と「学習支援(SOP)」～

（1）遠隔教育配信センターの設置

配信センター方式の中核を担うのが、大分市の大分上野丘高校の敷地内に、令和７年４月１日に開所した「大分県教育庁遠隔教育配信センター」です。このセンターは、延床面積 319.5㎡の施設で、防音・吸音機能を備えた専用配信スタジオ（配信室）が 8 室整備されています。センターには専任の教員が常駐しており、授業の配信だけでなく、生徒の学習支援や進路相談といった伴走型の支援も行っています。令和 7 年度は、専任教員 9 名と職員 3 名の体制で運営されています。

【配信室】

【執務室】

（2）配信センター方式による遠隔授業

配信センター方式の遠隔授業は、以下の基本方針に基づいて実施しています。

①実施方法

遠隔教育配信センターから 2 校を対象に、同時双方向型の授業を配信。1 校あたりおおむね 10 名程度の生徒が参加。

②対象校

普通科を設置する地域の高等学校を中心に、段階的に導入。令和 7 年度（2025 年度）は 4 校で先行実施し、令和 8 年度（2026 年度）には新たに 8 校、令和 9 年度（2027 年度）にはさらに 5 校が加わる予定。これにより、令和 9 年度までに合計 17 校が遠隔授業の受信校となる計画。

③対象学年

原則、選抜性の高い大学等を志望する2・3年生のうち、まずは理系を選択した2年生を対象に授業を実施。導入 2 年目以降は、2・3 年生の両学年で実施。令和 7 年度は、4 校から計 42 名の生徒が参加。

④配信教科

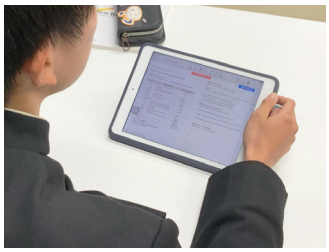
数学（数学 B･C）、英語（英語コミュニケーションⅡ･Ⅲ）、理科（物理・化学）を対象。理科（物理・化学）は、各校において導入 2 年目以降に、3年生を対象に数学、英語に加えて実施します。

⑤授業実施状況

現在各校で行われている学習習熟度別指導より高いレベル（選抜性の高い大学等を志望する生徒向け）の授業を実施。配信センターの専任教員がセンターから各受信校へ授業をライブ（リアルタイム）で配信します。受信校の教室には大型モニターが 2 台設置されており、教員がほぼ等身大で表示されるため、対面授業に近い臨場感が得られ、生徒は集中して意欲的に学習に取り組むことができます。また、生徒の学習状況を把握するために、学習支援アプリケーション「MetaMoji」、机間指導支援アバター「temi」などの ICT 機器を活用しています。MetaMoji を利用することで、生徒がスタイラスペンなどで考えや問題の答えをどのように書きこんでいるのかなど、生徒の 1 人 1 台端末上での学習状況をリアルタイムで教員が把握することができます。さらに、temi を活用することで、教員が生徒の近くで取り組みの様子を観察したり、生徒が教員に質問したりするなど、個別の学習の進捗や変化を的確に捉えることが可能です。加えて、受信校の教室に設置されている拡張カメラ機器「NeatFrame」（3 台）を通じて、ペア校の生徒と議論し、意見交換や発表･質疑応答を行うことで、学校の枠を超えてお互いを高め合う、協働的な学び

の環境が生まれています。NeatFrame は、優れた集音性能とノイズ除去機能、AI による顔認識や表情のクローズアップ表示が可能で、生徒同士の円滑なコミュニケーションに寄与しています。生徒からは「普段の授業と変わらず違和感がない」「イヤホンで聞くよりも音が良い」といった肯定的な感想も聞かれています。配信センター方式の遠隔授業に参加した生徒からは、「他校の人たちと一緒に授業を受けることは今までになく、新鮮だと感じました」、「レベルの高い授業を受けられることは、自分にとって大きな学びがあり、良い経験になっています」、「授業を通してさまざまな人と関わることができ、自分の意見を発信しながら他の人の考えを吸収したいと思いました」といった前向きな声が寄せられています。

【 受信校（2校合同遠隔授業 _ 英語）】


【学習支援アプリケーション】

【2 校間でのディスカッション】

(3) 配信センター方式による遠隔学習支援 ～ 生徒進学支援オプション(SOP)～

大分モデルのもう一つの柱は、「遠隔による学習支援(SOP)」です。SOP とは「生徒進学支援オプション」のことで、遠隔授業に加えて生徒に対するきめ細やかな学習支援を行い、学習効果や学習意欲の向上を図ることを目的としています。生徒は自身の進路希望や学習状況に応じて、必要な支援を自ら選択して取り組むことができます。SOP には以下の 6 種類があり、対象となる生徒によって受講可能な支援が異なります。

SOP1 長期休業中の特別授業（ライブ配信、アーカイブ配信）	SOP3 1対1生徒個別指導	SOP5 動機付け・意識改革（進路講演会等）
SOP2 オンデマンドによる動画教材配信	SOP4 オンライン課題配信	SOP6 オンライン面談

①大分県内すべての普通科等設置校（28 校）の生徒が受講できるもの

（ア）SOP1：長期休業中の特別授業

大学進学を希望する高校 2 年生を対象に、夏・冬・春の長期休業中に実施される特別授業です。大学を志望する生徒向けに、ライブ配信とアーカイブ配信を組み合わせて提供。令和 7 年度は、夏季特別授業として、難易度別に 2 グレードの英語と数学を 5 日間にわたり実施する予定。

（イ）SOP2：オンデマンドによる動画教材配信 A（大学入試問題等解説動画）

大学の個別学力検査（2次試験）の解説動画を配信。配信センターの専任教員が過去の良問を厳選し、大学入試に必要とされる力や典型問題の解法を分かりやすく解説します。

- 英語：語彙、英訳・和訳、要約などに関する基礎力の確認と体系的な学習を目的とした動画教材を配信
- 数学：重要問題を中心に、初見問題への対応力や、完答に必要な力をどのように養うかを解説
- 物理:「運動」「電磁気」「波」「気体分子」の 4 分野から、頻出分野の公式・法則、立式のポイントなどを解説
- 化学：理論化学や有機化合物を中心に、既存知識の活用法やリード文の読解ポイントなどを解説

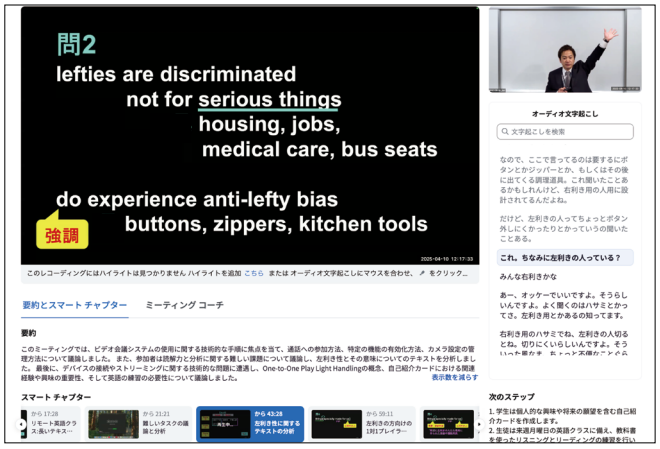
年間約 25 本の動画を配信予定で、対象は県内の普

通科等設置校に在籍する３年生（２年生でも受講可）。

②「配信センター方式」による遠隔授業を受講している生徒のみが対象となるもの

（ウ）SOP2：オンデマンドによる動画教材配信 B（授業録画データ）

遠隔授業のアーカイブ動画をオンデマンドで配信。授業内容の復習を目的としており、原則として自宅での視聴を想定（倍速視聴可）。年間を通じて実施される全教科の遠隔授業が対象。



【授業録画データ】

（エ）SOP3：1 対 1 生徒個別指導

平日放課後や長期休業中に、配信センターから遠隔で１対１の個別指導（（個人）添削指導など）を実施。大学入試問題や各種演習問題の解説。

（オ）SOP4：オンライン課題

学習支援アプリ（MetaMoji や Microsoft Teams など）を活用し、授業内容の定着を図る補充問題や発展的な課題を配信。提出･集約･フィードバックを含む「平日課題」および「週末課題」を実施。

（カ）SOP5：動機付け・意識改革

大学教授や、地域の高校から高い志を持って進路目標を達成した先輩による講話・ワークショップを Zoom 等で実施します。合格への意識づけや、ロールモデルからの学びの機会として、遠隔授業に参加している高校の生徒が合同で参加するイベントを、年に数回、平日放課後に開催。

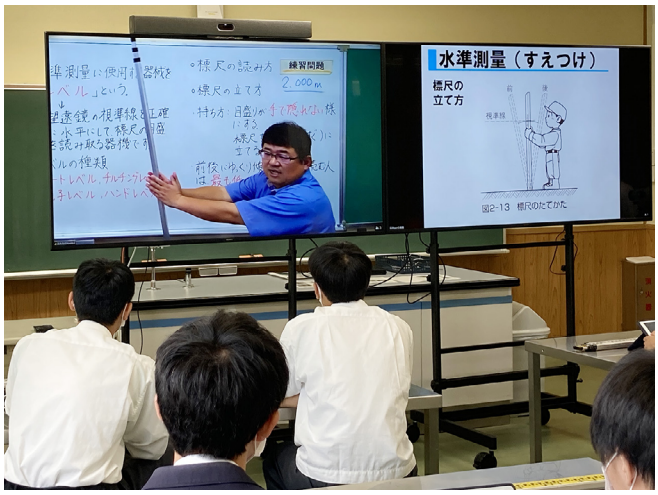
（キ）SOP6：オンライン面談

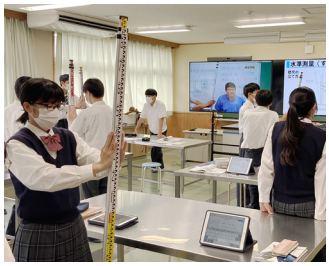
配信センターの専任教員と生徒がオンラインで、教科内容に特化した個別面談を実施。授業中の疑問点の解決や、学習内容の個別相談などを行う。学期に１回、夏期･冬期休業中に各１回、年間計５回の実施を予定。

これらの SOP は、令和７年４月から開始された遠隔授業と連動して実施され、「大分モデル」における学習支援の柱として展開されています。

5 学校間連携方式による遠隔教育

大分県の遠隔教育には、もう一つの形態として「学校間連携方式」があります。この方式は、文部科学省の「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」の指定を受け、令和３年度（2021 年度）に開始されました。令和６年度からは、文部科学省の「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業」の指定を受け、引き続き実施されています。





【受信校（学校間連携方式 _ 農業・測量）】

学校間連携方式では、遠隔教育配信センターが全体の取りまとめや調整等を担い、主に専門科目を実施する学校が配信校となります。そこから、地域の受信校へ多様な科目の遠隔授業が配信されており、受信校の教育の特色づくりに大きく貢献しています。例えば、大分南高校から中津南高校耶馬溪校に対して、福祉科目「こころとからだの理解」が、また情報科学高校から国東高校に対して、商業科目「プログラミング」が配信されています。この方式により、専門分野の教員が配置されていない学校でも、生徒がその分野の学びに触れることが可能となり、教育機会の均等化や生徒の多様な進路希望への対応が図られています。

6 テクノロジーの活用と探究的な学びへの可能性

大分県の遠隔教育では、先進的なテクノロジーを積極的に活用しています。前述の大型モニターやアバター、拡張カメラ機器に加え、配信システムにはZoom Roomsを採用し、生徒には1人1台端末等（iPad+MetaMoji）が配布されています。これらの技術により、生徒からは「まるで同じ教室にいるような感覚で授業を受けられる」といった感想をいただいています。

また、遠隔教育だからこそ実現できる探究的な学びの可能性も広がっています。探究的な学びでは、専門家との出会いが非常に重要ですが、遠隔教育を活用することで、遠隔地の学校でも多様な分野の専門家と容易に交流することが可能となります。大分県では、県内の立命館アジア太平洋大学（APU）や、アメリカのスタンフォード大学と連携し、一部の生徒を対象に遠隔による特別講座なども実施しています。

さらに、遠隔教育は、生徒同士の情報共有を促進するうえでも有効です。2校合同で行う授業では、他校の生徒とともに学ぶことができ、お互いを高め合う新たな学びの環境が生まれています。他校の生徒とのやり取りを通じて、生徒が新たな発見や気づきを得ることも期待されます。このように、生徒同士がつながる仕組みは、探究的な学びにおいても非常に重要な要素となっています。

大分県の一部の高校では国外の学校と連携し、遠隔で探究的な学びを展開する取り組みを進めています。異なる文化的背景を持つ生徒が、国境を越えて同じチームで学び合い、議論を交わすことは、遠隔教育ならではの大きな強みといえるでしょう。

7 今後の展望と大分モデルの意義

大分県の遠隔教育は、今後、段階的に拡大されていく予定です。配信センター方式による遠隔授業は、令和9年度までに県内の地域にある普通科設置校17校への導入が計画されています。大分県の遠隔教育は、将来的な生徒数の減少に備え、地域の学校環境を整えるための取り組みとして位置づけられています。これは、人口減少を見据え、教育の質と多様な学びを維持・向上させるための「未来への投資」ともいえるものです。

大分モデルの特徴は、遠隔授業に加えて、生徒進学支援オプション（SOP）による遠隔での学習支援がパッケージ化されている点にあります。これにより、生徒は授業に加えて、個別の学習支援や進路指導を一貫して遠隔で受けることが可能となります。

大分県の遠隔教育の取り組みは、地域課題の解決にとどまらず、地理的制約を超えた学校間連携や、国際的な視野を持った教育の実現にもつながっています。これは、人口減少が進む日本社会において、教育の新たな姿を提示する重要な一歩であり、生徒一人ひとりがより最適な学習環境で学べる未来を切り開くカギとなると確信しています。

8 おわりに

大分県が遠隔教育配信センターを設置し、遠隔教育「大分モデル」の本格運用を開始できたのは、ひとえに関係各位のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。遠隔教育は、すぐに目に見える大きな成果が得られるものばかりではないかもしれません。しかし、5 年後、10 年後に「生徒のために取り組んでよかった」と心から思えるような、新たな教育のスタンダードを、皆様とともに築いていきたいと考えております。

また、他の教育委員会の皆様におかれましても、本県の取り組みが、それぞれの地域が抱える課題に対して遠隔教育が有効な手段の一つとなり得ることを示す事例となれば幸いです。今後とも関係する皆様と力を合わせ、県内どの地域においても、多様で質の高い高校教育を保障する「未来志向の教育」の実現を目指してまいります。

問い合わせ先
大分県教育庁 遠隔教育配信センター
電　話　097-510-9108
メール　oitatec@oen.ed.jp
ホームページ　https://oitatele.com/
担当：釘宮